

大阪発・映画の可能性

第6回 21cafe

(平成19年10月30日／大阪市北区：レーベルカフェ)

映画監督の金秀吉(キム・スギル)氏をゲストに招き、大阪での映画づくりについて聞いた。金氏がいま作ろうとしている映画は、大阪をこよなく愛した小説家・織田作之助の生涯。33歳で天逝したオダサクと妻・一枝の二人を主人公に、戦前の洗練された大阪の街のイメージを伝え、戦争が近づくなか人生をギリギリまで楽しもうとしていた人々を描く。東京と大阪でクルーを集め、ワークショップ形式で製作するという。大阪における映画人材の能力向上がねらいだ。「映画の街としての大阪の可能性は、大阪発の良質の映画を一本ずつ作っていくという方法にある」。金氏は、大阪で映画を製作することで、製作費用の多くは大阪の街で循環し、大阪経済の活性化にもつながるとも強調した。



企業だからこそできる社会貢献

第7回 21cafe

(平成19年11月28日／大阪市北区：レーベルカフェ)

りそな銀行のREENAL(リーナル)プロジェクトのプロデューサー・藤原明氏がゲスト。REENALとは、りそな銀行が中心となって行なう企業や地域とのコラボレーション事業。ラジオ局のFM802とコラボレーションして、若手アーティストの作品をキャッシュカードのデザインに採用したのがはじまりで、企業・大学・商店街など、さまざまな団体とのコラボレーション企画を手掛けてきた。イベントを仕掛けたり、フリーペーパーや雑誌を作ったり、商品を開発して流通させたりと、地域のポテンシャルを活かした多種多様な展開を行なっている。「プロジェクトを通じて新しいマーケットを創造できれば、本業を果たしつつ社会貢献することができる」と藤原氏。さまざまな企業と関わる銀行の立場を活かし、大阪のまちに新たなムーブメントを起している。



若手アーティストの作品を採用したキャッシュカード

新・都市の時代 — 創造都市の発展と連携を求めて

世界創造都市フォーラム 2007 in OSAKA

(平成19年10月24日～27日／大阪国際交流センター、大阪市役所)



映像や音楽、美術などの創造産業の発展に伴い、ハイテク技術者やアーティストたちが好んで暮らし、活動する『創造都市』。その世界的な波を受けて、各都市がネットワークを組んで発展する可能性を探るべく、国内外の研究者や都市政策担当者が議論し、交流を深めた。25

日の国際シンポジウムでは、チャールズ・ランドリー氏(英国・シンク

タンク「コメディア」代表)が、『創造都市と文化的多様性』をテーマに講演。世界各国の街角にあるアートや広告、商品陳列などを映像で紹介しつつ、「新しい商品やサービス、考え方などの出現するスピードが早い都市では、選択肢の多さや多様な価値観がストレスを生んでいる」とし、それが人々の正しい判断力を低下させないかと危惧した。また、「人種や世代など、複数のアイデンティティをもつ都市ではステレオタイプな表現は意味をなさない」など、多彩な視点で問題を提起した。

チャールズ・ランドリー氏

